

ふるさと 寺子屋



南砺市じょうはな

2018

ふるさと参考書

【1時限目】火おこし体験

火おこし体験

現代では、マッチやライターなどで、かんたんに火をつけることができます。こうした道具がなかった昔の人たちは、どのようにして火を起こしていたのでしょうか。

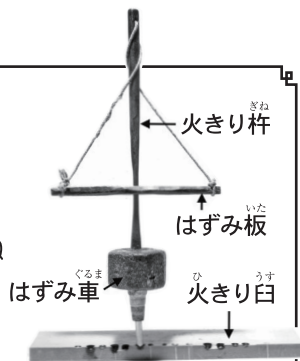
◆ 昔は大きく分けて3つの方法で火を起こしていました。

- ・ 火花式 (火打石)
- ・ 摩擦式 (火溝式、キリモミ式、弓ギリ式、マイギリ式 等)
- ・ 光学式 (虫メガネ、凹面鏡 等)

今回は、木と木をこすることで熱を発生させる摩擦式の中のマイギリ式 (神社の儀式等で使われていた) という方法で火を起こしてみましょう。

マイギリ式

1. 火きりうすの上に火きりぎねを立てる。
2. ひもを火きりぎねにまきつける。
3. はずみ板を上下にうごかして火きりぎねを回転させる。
4. 木と木のまさつ熱で、けむりが出てくる。
5. 火きりうすの穴からこげた木のこながこぼれ、その中に火種ができる。
6. 火種をもぐさに包み、火をうつしとる。



み すず
みてるだけで涼しくなる？
なつ なが
夏だけのごちそう「流しそうめん」



なが こむぎ のうりんじゅうごう
流しそうめんでは小麦「農林十号」
つか ごんじろう しょう
を使った権次郎そうめんを使用して
います。

ごんじろう なんとしみのだに
権次郎そうめんは、南砺市蓑谷
ちく さいばい でんとう こむぎ しょう
地区で栽培した伝統の小麦を使用し
た素朴な味わいのそうめんです。

いなづかごんじろう
稲塚権次郎さんとは？

めいじ ねん なんとしみのだに ちく
明治30年、南砺市蓑谷地区
(西明)に生まれた農学者です。

しょうわ ねん
昭和7年にコシヒカリ、サ
サニシキ、あきたこまちの先祖

すいとうのうりんいちごう
となる「水稻農林一号」を、

しょうわ ねん のち みどり
昭和10年には、後に「緑の
かくめい せかい しょくりょうきき
革命」と呼ばれ世界の食糧危機

すく こむぎ せんぞ こむぎのうりん
を救った小麦の先祖「小麦農林
じゅうごう かんせい
十号」を完成させました。



こうし まついのりこ せんせい
講師 松井 紀子 先生

じょうはな きぬ お
城端で絹を織っている
まついきぎょう さんにんむすめ すえ
松井機業の三人娘の末っ



こ うま きぬ かいこ
子として生まれる。絹やお蚕さまのおもしろさや
ただ じょうほう かつようほうほう つた げんだい
正しい情報、活用方法をお伝えるため、現代の
せいかつ あ きぬ う だ
生活に合った絹のアイテムを生み出しています。

● 南砺市とお蚕さま

い な み さんしゆ かいこ たまご つく
むかしむかし、井波で「蚕種」(お蚕さまの卵)が作られ、
こか やま ふくみつ かいこ たいせつ そだ
五箇山や福光ではお蚕さまが大切に育てられていました。

かいこ で き あ まゆ いと じょうはな はこ きれい
お蚕さまによって出来上がった繭や糸は城端に運ばれ、綺麗
きぬおりもの お え ど じだい か が きぬ
な絹織物が織られるようになりました。江戸時代には「加賀絹」
きょうと え ど はんぱい
として京都や江戸でも販売されていたそうです。

● 「しけ絹」ってなあに？

じょうはな きぬ お いま やく ねんまえ
城端で絹が織られるようになったのは今から約450年前、
べついん じょうはな き とおき おな じ き き
別院が城端に来た時と同じような時期と聞いています。

にとう かいこ ちから あわ いっしょ たままゆ よ
二頭のお蚕さまが力を合せて一緒につくった「玉繭」と呼ば
れる、大きくて、大変貴重な繭からとれる「玉糸」で織ったも
のを「しけ絹」と言い、城端でよく織られるようになったそう
です。

きぬ むかし ふすまがみ そざい あい
「しけ絹」は昔から襖紙の素材として愛されています。

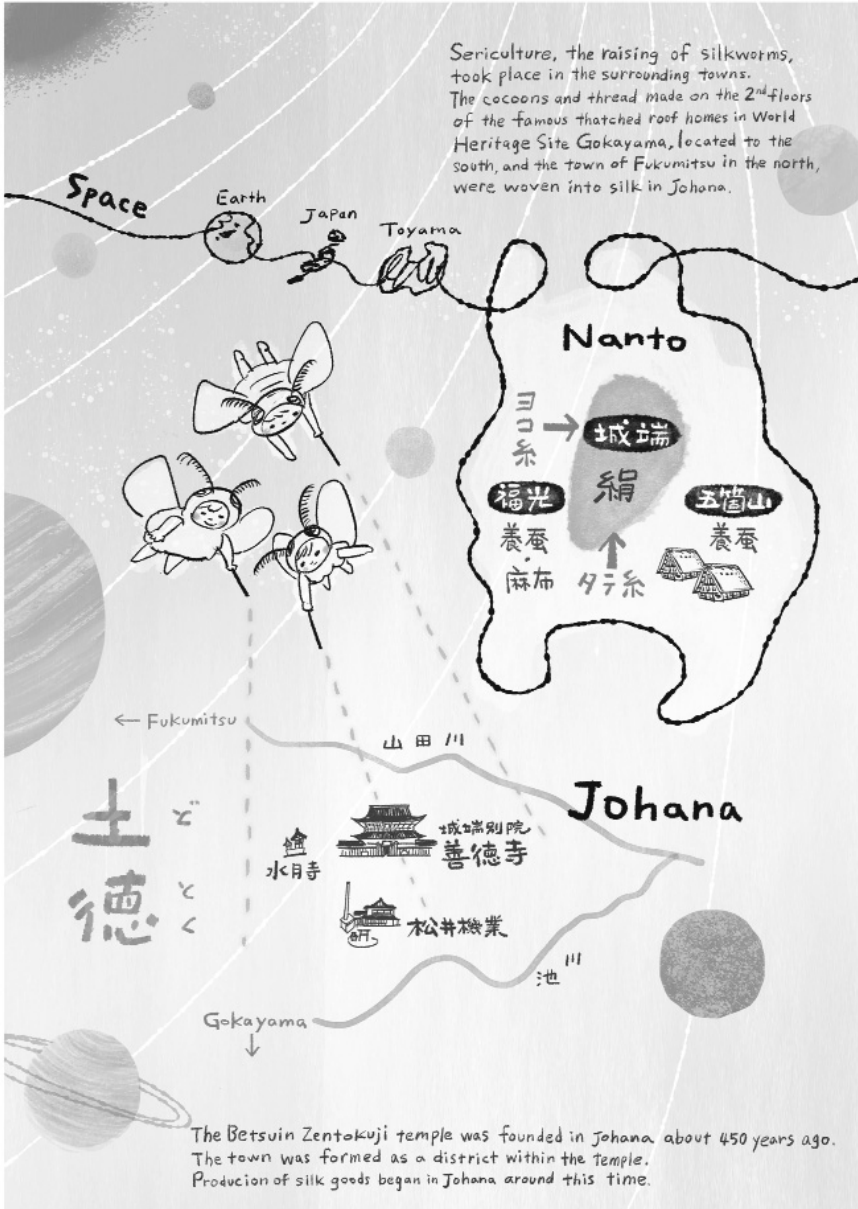
べついん さが
(※別院にも使われているので探してみてください！)

きぬ かいこ え いと
絹はお蚕さまの“いのち”をいただいて得られる糸。

こんかい じゆぎょう とお かいこ かがや やさ
今回の授業を通して、お蚕さまの“いのちの輝き”や“優しさ”
かん うれ
を感じてくれたら嬉しいです。

じげんめ きぬ がみ
【2時限目】 しけ絹おり紙

かいこ み なんとし じょうはな ちけい
【お蚕さまから見た南砺市のつながりと城端の地形】



えんそう 演奏 とやママおんがくたい Pokke



えんそうきょく
【演奏曲】

- ① 「にじ」
- ② 「シンコーペーデットクロック」
- ③ 「ミッキーマウスマーチ」
- ④ 「夢ゆめをかなえてドラえもん」

えんそう 演奏 【とやママおんがくたい Pokke】

2013年3月に結成したママさんが中心の吹奏楽団です。
社会人吹奏楽団は主に夜に練習する団体が多く、小さな子どもがいるママ達はなかなか参加することができません。そこで子どもたちと一緒に活動できる吹奏楽団を作ろうというところから Pokke を発足させました。

Pokke で演奏する曲は親子で楽しめる曲が中心です。音遊びなどをいれながら楽しく音楽に触れられるよう工夫して活動しています。

こうし 講師
こにし まきこ せんせい
小西 牧子 先生

せいがか かしゆ
声楽家ソプラノ歌手。
いしかけんかなざわしざいじゅう そうそふ じょうはな
石川県金沢市在住。曾祖父は城端ゆか



ぶんかじん のむらまんかじょう
りの文化人、野村満花城（1888～1959）。
いしかわけんりつかなざわつみがおかこうとうがっこう へ くにたちおんがく
石川県立金沢辰巳丘高等学校を経て、国立音楽
だいがくせいがかがつか しょうわおんがくだいがくだいがくいん
大学声楽学科、昭和音楽大学大学院
せんこうしゅうりょう
オペラ専攻修了、ドン・ゼンハウザ
おんがくいんそつぎょう
一音楽院卒業。
えんそう よしだ たまみ
ピアノ演奏は吉田 珠美さん。



《 曲 目 》

- はまべ うた よいまちぐさ はたけ どくそう
◇浜辺の歌 ◇宵待草 ◇さとうきび畑 ◇ピアノ独奏
◇～みんなで歌いましょう～ 『城端祭』
◇スタンドアローン

～ みんなで歌いましょう～

城端祭

のむらまんかじょう
野村満花城 作詞 さくし

一、春の名残が 名物祭
はる なごり

飾る曳山々々 夜街に映えて
かざり やまやま よまち

今日は嬉しや宵祭
きょう うれい よいまつり

来よ友よ 人は待たむ
きよとも ひと ま

明日は晴れるよ 城端祭
あす ははる よ じょうはなまつり

二、みこし鉾傘庵や 曳山や
きり はなざさ かさほいおり やま

桐の花咲く 町々巡り
きり はなざさ まちめぐ

嗚呼ゆかしや 篠笛の音色
うた いとろ しのねいろ

唄に三絃に もつれ鳴くよ
うた いとろ もつれな

春の名残が 城端祭
はる なごり じょうはなまつり

夜の曳山 戻りの庵
よる ひきやま もどりのいおり

三、つるす提灯 ゆれゆれゆれて
つるす ちようちん ゆれゆれゆれて

帰り離子よ 流し行く
かえり ばやし なが

いつまでも 耳に聞こゆ
いつまでも みみ

春を惜むよ 城端祭
はるを おし じょうはなまつり

講師 林道美有紀先生



南砺市出身。幼少より民謡を学ぶ。単なる流行ではなく永く聴いてもらえる作品づくりを目指し県内外で活動。各種イベントをはじめ、LIVE活動、施設慰問など、多数出演する。また民謡を若い世代にも興味を持っていただけるようにと、和楽器以外の様々な楽器ともコラボレーションしている。地元南砺市では観光大使も務め、南砺市の歌「緑の里から」を歌唱。その他、CMソングや映画に多数楽曲が採用されている。

《プログラム》

- ◇ かがやき ◇ 麦屋節 ◇ こきりこ節 ◇ 花になれ

南砺市の歌「緑の里から」

作詞：南砺市のみなさん 作曲：高原兄

何百年歴史と文化引き継いで来たんだろう
 今まで守り育ててきた大切なものがある
 山の風川の音出会う人みんな宝物だよ
 南砺市のまちを守ってゆこう
 ある時は助け合いながら励ましあって
 南砺市と共に歩んでゆこう
 みんな一緒に歩くるまちで 未来育てよう 南砺市
 手をたずさえて歩んできた 仲間の絆がある
 今日も迎えてくれる笑顔 幸せがここにある
 街並みも 優しくも 時代変わっても 変わらぬよ
 南砺市のまちが好きだから
 君と力を合わせながらひとつになつて 南砺市と夢を育てよう
 みんな一緒に歩くるまちで 未来話そう 南砺市
 祭りに合掌造りこきりこ 麦屋のしらべ
 さきがけて 緑の里から 世界へ
 南砺市のまちを守ってゆこう
 みんなで力合わせながらひとつになつて
 南砺市と共に歩んでゆこう
 みんな一緒に歩くるまちで 未来めざそう 南砺市
 未来めざそう 南砺市

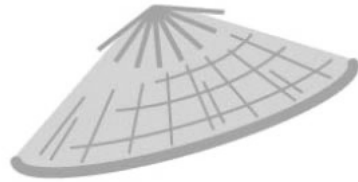
【3時限目】菅コースター作り

すげがさ 菅笠

じょうはなべついでんぜんとくじ ちゅうしん がつ かいさい じょうはな まつり
城端別院善徳寺を中心に9月に開催される「城端むぎや祭」の、
かさ踊りで使用されることでなじみある「菅笠」ですが、本来
のうぎぎょう がいしゅつじ ひよ あめよ ちようほう げんざい にほん
は農作業や外出時の日除け・雨除けに重宝され、現在では日本
かくち でんとうぎょうじ まつ みんげいひん ひろ しよう
各地の伝統行事・祭りや民芸品として広く使用されています。

すげがさ ふくおかまち 菅笠と福岡町

たかおかしふくおかまち すげがさ ゆらい
高岡市福岡町の菅笠の由来は、
今から400年あまりさかのぼり、
のちに前田利家公に特産として
しょうれい めいじ すげがさ どんや
奨励され、明治には菅笠問屋も
こ たつ ねんかん まんまい せいざん
60戸に達し、年間300万枚を生産しました。



すげがさ ふくおかまち でんとうてき とくさんひん はつてん おお
菅笠が福岡町の伝統的な特産品として発展したかげには、多
せんじんたち そうさく かいりょう はんろ かいたく どりよく すぐ
くの先人達の創作・改良・販路の開拓などの努力があり、優れた
ぎじゅつ そぼく てづく せいひん よ ひとびと こころ
技術、素朴な手作り製品の良さが人々の心をとらえています。
げんざい じつようてき かさ くわ おど はながさ みんげいひん せいざん さか
現在では、実用的な笠に加え踊りの花笠や民芸品の生産が盛ん
ぜんこく ぜんこく ほこ あたら せいひん
で、全国の90パーセントのシェアを誇り、さらに新しい製品
かいほつ とく くに
の開発にも取り組んでいます。

とくちょう 特徴

りょうしつ すげがさ い すげがさ あめ とき みず ふく あめ
良質の菅草を生かした菅笠は、雨の時には水を含むので雨を
と お ひよ け くさ は ねつ とお のうぎぎょう
通さず、日除には草の葉であるため熱を通さないため、農作業
つりよう たいへんちようほう
や釣用などに大変重宝されていました。

すげ しき 《 菅の四季 》

あき 秋 植え付け

くがつ げじゆん ねもと ふと しんね ほつせい りょうびよう
九月の下旬、根元が太く新根の発生している良苗
りゆうすい ひた ほかん じゆうがつちゆう よぶん はさぎき
を流水に浸して保管します。十月中には余分な葉先
を切り落とし 35 センチ丈に揃えた苗を、かくど 45 度
斜めにして田に植え付け、積雪期を迎えます。



ふゆ 冬 菅笠作りの最盛期



すげがづく いちばんじゆうよう
菅笠作りにおいて、一番重要なポイントは、
しっけ。スゲは、かわくとおれたりわれたりしま
す。作業前にはスゲを 2～3 時間水にひたし
ておきますが、作業中もぬれたタオルを当て
たり、霧吹きをしたりします。冬は、適度な
しっけ 湿気があるので、スゲが柔らかくなり、作業が
しやすいため、笠縫の最盛期といえます。

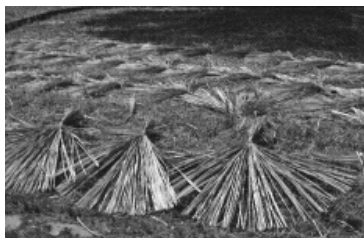
はる 春 間引き

ほくりく はる ゆきど どうじ ひとかぶ おお しんめ
北陸の春、雪解けと同時に一株から多くの新芽が
しんちよう 伸長します。
ついひ ほどこ とも りょうめ ほん のこ ふりよう
追肥を施すと共に、良芽を 4 本くらい残して不良
なえ まびき さぎよう かいおこな
苗を間引きする作業を 3～5 回行います。そうす
ると葉身幅が広く、草丈の長いものに育ちます。



なつ 夏 刈り取り

しちがつまつ あつ さか か と おこな か と
七月末の暑い盛りに、スゲの刈り取りが行われます。刈り取りは、
せいてん そうちようまた ゆうがた くさかりがま もち ひとかぶ すいへい か と
晴天の早朝又は夕方、草刈鎌を用い、一株ずつ水平に刈り取ります。



そして、刈り取られたスゲは、4・5日か
うらおもてこうご てんびぼ かんそう だっしよく
けて裏表交互に天日干しし、乾燥・脱色を
はかります。

おうぎじよう なら か と ふくおか
扇状に並べられたスゲ干しは、福岡でし
み うつく けいかん おやべがわ
か見られない美しい景観です。小矢部川
ふきん 付のあちらこちらで見ることが出来ます。

「城端むぎや祭りの歴史」

※おうちの人といっしょによんでみよう！

●麦屋節のはじまり

説① 寿永2年(1183年)、繁栄していた平家の一門が、倶利伽羅峠での戦いに敗れ、人里はなれた庄川の上流に隠れ住み、農耕のつれづれに唄い踊ったのが麦屋節の始まりと伝えられています。勇壮な踊りと哀調をおびた歌詞は、日本七大民謡の一つとしても有名です。(平家落人説 城端町・新声会資料より)

説② 九州・佐賀馬渡島の漁師唄が北上し、能登輪島で能登むぎや節となり、五箇山で越中むぎや節となったのではないかと推測されている。(むぎやの起こりについての一説)

●大正14年(1925年) 11月

東京で開催された日本青年会館オープン記念(全国郷土芸能大会)で全国七大民謡の一つとなり、城端での公演を観た新町(城端)の若連中が、麦屋節新声会を設立しました。

●昭和25年(1950年) 10月

城端400年祭が開催され、そこで麦屋踊りが披露された。新声会連中が、城端名物麦屋祭をつくろうということで、全町の芸達者に協力を呼びかけ、当日は参加者200人を超える大踊りとなりました。来年からは是非とも、城端麦屋祭を開催しようと気運が高まったのです。城端には曳山祭の庵唄の関係で、芸達者な人が各町におられたので、楽器演奏や踊りの練習がスムーズに始まり、麦屋節新声会が中心となり指導が行われました。

●昭和26年(1951年)

第1回むぎや祭が開催される。城端商工会の「優良店会」が主となり、城端町・五箇山保存会・富山新聞が共催した。

●昭和27年(1952年)

麦屋節が文部省の無形文化財に選定される。

●平成12年(2000年)

むぎや祭 第50回 記念大会・じゃんこいむぎや第1回。

●平成22年(2010年)

むぎや祭 第60回 記念大会。

参考資料：「城端むぎや祭60回記念大会 歴史学習会Part I」
(城端地区公民館ふるさと教育推進委員会)

ぜんとくじがっせん
「善徳寺合戦」



いま やく ねん にほん
今から約 850 年まえ、日本かくちでは
げんじ へいけ
「源氏」と「平家」がはげしくあそっ
ていました。

なが つづ げんじ しょうり
長く続いた「いくさ」は、源氏が勝利
して終わったのです。

たたか やぶ へいけ ひとびと げんじ
戦いに敗れた平家の人々は、源氏からに
げるように日本かくちにかくれ住みました。
なんと こかやま へいけ
南砺の「五箇山」にも平家がかくれ住ん
だと伝えられています。



「いくさ」に敗れた平家の人々は「おち
うど」と呼ばれ、刀を「くわ」や「かま
に持ちかえて、山仕事や畑仕事しながら
ひっそりとくらしていました。

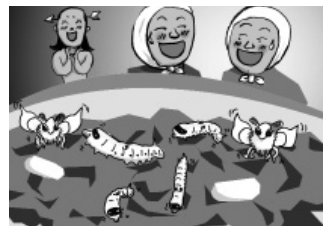
そんな生活のなか、昔のはなやかな時代を思い出し、うたわ
れた「歌」があります。

それこそ、今でもうたわれている「麦屋節」なのです。

昔から、五箇山では「かいこ」から「絹」を作っていました。
そして、城端では「絹」から「絹織物」を作っていました。

五箇山と城端は「絹」によってつな
がり、とても仲良くなったのです。

五箇山でうわれていた麦屋節」は
城端でもうたわれるようになりました。

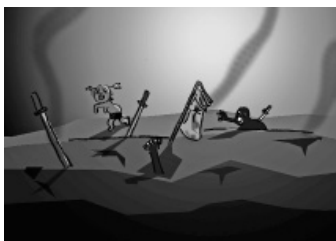


「^{むぎやぶし}麦屋節」は^{じょうはな}城端の^{ひとびと}人々にとても愛され、1951年より「^{ねん}城端^{じょうはな}むぎや祭り」がはじまりました。



^{へいけ}平家が^{かなしい}かなしい^{きも}気持ちでうたった「^{むぎやぶし}麦屋節」も、^{いま}今ではにぎやかな「^{むぎや祭り}むぎや祭り」でうたわれるようになったのです。

しかし、^{へいけ}平家の^{かなしみ}かなしみがなくなったわけではありません…



「^{いくさ}いくさ」に敗れた「^{へいけ}平家の^{ぼうれい}亡霊」たちは、^{いま}いまでも^{かなしい}かなしい^{きも}気持ちでこの世をさまよっています。

そして、^{ことし}今年も「^{むぎや祭り}むぎや祭り」が^{ちか}近づ^がく8月になり…

^{どこ}どこからか^き聞こえてくる「^{むぎやぶし}麦屋節」に^{ひきよ}ひきよせられて、「^{へいけ}平家の^{ぼうれい}亡霊」たちが^{じょうはな}城端にあつまってきました。

^{ぼうれい}亡霊たちは「^{いくさ}いくさ」に敗れたくやしさをはらすため、もう^{いちど}一度「^{いくさ}いくさ」をおこそうとしています！

^{ぼうれい}亡霊たちがあばれてしまうと、^{みんな}みんなの^{なんど}南砺がめちゃくちやになってしまう…

ぜったいに「^{いくさ}いくさ」をおこしてはいけません！

^{ぼうれい}亡霊たちを^お追いはらうため、^{なんど}南砺に住む^すみんなの^{ちから}力をあわせて「^{せい}聖なる^{きぬおりもの}絹織物」をつくることができました。

しかし、「^{せい}聖なる^{きぬおりもの}絹織物」の^{ふしぎ}ふしぎな^{ちから}力をつかえるのは^{じゅん}じゅんすいな^{こども}子供たちだけなのです…

^{なんど}南砺の^{へいわ}平和をまもるため、^{ゆうき}みんなの^{ゆうき}勇気がひつようだ！！

てらこや
ふるさと寺子屋

しゅっせきひょう
出席表

てらこや さんか かき お
ふるさと寺子屋に参加すると下記にスタンプを押します！

じ かいさい だいちゅうせんかい ちゅうせんけん
さらに17時から開催される大抽選会の「抽選券」もプレゼント！

じげんめ
1時限目

ひ たいけん
火おこし体験



じげんめ
2時限目

きぬ がみ
しけ絹 おり紙



じげんめ
3時限目

すげ づく
菅コースター作り



じげんめ
4時限目

やみこう やしき
闇講 おばけ屋敷



じげんめ かくてらこやしゅうりょうご うけつけ お
※1～3時限目は各講座終了後に受付にてスタンプを押します。

じげんめ やみこう やしき さんかうけつけ さい せいりけん
※4時限目の「闇講 おばけ屋敷」は、参加受付の際に「整理券」
ひ か お
と引き換えにスタンプを押します。

ふるさと寺子屋 2018 8月19日(日)

ぜんとくじ かいじょう
善徳寺 会場マップ



↓ 城端西町商店街(すごろくスタンプラリー会場)

<p>てらこや じかんわ 寺子屋 時間割り</p>	<p>ふるさと寺子屋 2 時限目 きめ がみ ④ しけ絹おり紙 11:30~12:30</p>	<p>ほうわ お坊さんの ありがたのお話 ⑧ 法話 14:20~15:20</p>
<p>らくいちらくざ えんにち ① 楽市楽座(縁日) 10:00~20:00</p>	<p>てらこや ⑤ 寺子屋コンサート① 12:30~13:00</p>	<p>てらこや ⑨ 寺子屋コンサート② 15:30~17:00</p>
<p>そうごううけつけ ② 総合受付 9:30~20:00</p>	<p>やみこう うけつけかし ⑥ 間講 受付開始 13:30~20:00</p>	<p>てらこや だいちゅうせんかい ⑩ 寺子屋 大抽選会 17:00~17:30</p>
<p>ふるさと寺子屋 1 時限目 ひ たいけん ③ 火おこし体験 10:00~11:30</p>	<p>ふるさと寺子屋 3 時限目 すげ づく ⑦ 管コースター作り 14:00~16:00</p>	<p>ふるさと寺子屋 4 時限目 やみこう やしき ⑪ 間講 おばけ屋敷 17:30~20:30</p>

ホームページ: www.nssjohana.wixsite.com/hurusato

お問い合わせ: 南砺市商工会城端事務所 TEL: 0763-62-2163

〒939-1864 富山県南砺市城端648-1



主催: 南砺市商工会青年部城端支部

協力: 城端別院善徳寺・城端地区自治振興会・城端小学校 PTA 学級委員会・となみ青年会議所城端コミュニティ・じょうはなフラワーカード会・城端ファンクラブ・じょうはなわんだ〜らんど・南砺市商工会青年部

後援: 南砺市・南砺市教育委員会 ※南砺市 協働のまちづくりモデル事業採択の事業です。